

安全データシート(SDS)

作成日 2007年4月1日

改定日 2022年4月1日

1. 製品及び会社情報

製品名: セパレーター 77
会社名: 出光NTG株式会社

住所: 川崎市幸区堀川町580 ソリッドスクエア東館15階
電話番号: 044-386-1659
FAX番号: 044-386-4159

製品の用途: 工業用防腐防カビ剤
整理番号: 424903300

2. 危険有害性の要約

国・地域情報: ・該当しない

GHS分類:

物理化学的危険性: ・分類できない又は区分に該当しない

健康に対する有害性:

急性毒性 (経口)	・区分4
急性毒性 (経皮)	・区分に該当しない
急性毒性 (吸引)	・区分4(粉じん及びミスト)
眼に対する重篤な損傷 ／眼刺激性	・区分2A

環境に対する有害性:

水生環境有害性 短期(急性)	・区分1
水生環境有害性 長期(慢性)	・区分1

*上記に記載がない危険有害性は、分類できない又は区分に該当しない

GHSラベル要素:

絵表示:



注意喚起語:	・警告	H code
危険有害性情報:	・飲み込むと有害	(H302)
	・吸入すると有害	(H332)
	・強い眼刺激	(H319)
	・長期継続的影響により水生生物に 非常に強い毒性	(H410)

注意書き:

〔安全対策〕

- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・取扱い後はうがいをして、手、顔などをよく洗うこと。
- ・この製品を使用するときには、適切な個人用保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、マスク等)及び作業衣を着用すること。
- ・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・粉じん/煙/ミスト/蒸気/スプレーの吸引を避けること。
- ・この製品は水生生物に対して毒性があるので、環境への放出を避けること。

〔応急措置〕

- ・漏出物を回収すること。
- ・吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・吸入した場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ・飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ・飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。
- ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。

〔保管〕

- ・製品の品質保護のため、0℃以下又は40℃以上になる場所には保管しないこと。
- ・容器は密閉し、換気の良い冷暗所で保管すること。
- ・施錠して保管すること。

〔廃棄〕

- ・内容物及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一物質・混合物の区分:	・混合物
化学名又は一般名:	・高分子カチオン系化合物の混合物
CAS No.:	・31075-24-8
官報公示整理番号(化審法):	・(7)-1532
含有量:	・非公開

4. 応急措置

- | | |
|------------|---|
| 吸入した場合: | <ul style="list-style-type: none">・空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。・気分が悪い時は、医師に診察/連絡すること。 |
| 皮膚に付着した場合: | <ul style="list-style-type: none">・汚染された衣服や靴を脱ぎ、製品に触れた部分を多量の水又は石鹼で15分以上洗浄すること。・洗浄後も異常が認められる場合は医師の診察/手当てを受けること。・汚染された衣服は着替え、再使用する場合には洗濯すること。 |

- 眼に入った場合: ・直ちに清浄で適温の緩やかな流水で15分以上洗眼すること。
・眼の刺激が続く場合、医師の診察/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合: ・コップ1～2杯の水を飲ませて、ゆっくりと希釈させること。
・無理に吐かせずに速やかに医師の診察/手当てを受けること。

***いずれの場合においても直ちに医師の診察/手当てを受けること。**

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤: ・散水/炭酸ガス/粉末消火剤/泡消火剤
- 使ってはならない消火剤: ・棒状注水
- 特有の有害危険性: ・加熱により容器が爆発するおそれがある。
・火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生する恐れがある。
- 特有の消火方法: ・消火作業は風上から行うこと。
・容器を放水により冷却すること。
- 消火を行う者の保護: ・空気呼吸器、化学用保護着を着用すること。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項: ・漏出時の処理を行う際には必ず保護具を着用すること。
・必要に応じた換気を確保すること。
・着火した場合に備えて、消火器材を準備すること。
・多量の場合、人を安全な場所に避難させること。
- 環境に対する注意事項: ・漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意すること。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材: ・多量の場合には可能な限りせき止めし、ポンプなどで回収すること。
・少量の場合には砂・ウエス等で吸収させ、密封容器に回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策: ・皮膚、眼へのばく露防止のため、長袖の作業衣を着用し、適切な保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、マスク等)を装着すること。
・製品のミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
・製品は漏れ、あふれ、飛散しないよう注意して取扱うこと。
・取扱い後にうがいをし、手、顔などをよく洗うこと。
・製品の容器は、転倒、落下、衝撃、引きずりなどの乱暴な取扱いはしないこと。
・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。
- 局所排気、全体換気: ・十分な排気下で取扱う。必要に応じて、局所排気設備を用いること。

保管

- 保管条件: ・使用の都度、容器を密閉すること。
・酸化剤から離して保管すること。

- 容器包装材料:
- ・容器は、施錠した換気の良い冷暗所に、一定の場所を定めて保管すること。
 - ・製品の品質保護のため、0℃以下又は40℃以上になる場所や雨水、直射日光のあたる場所、湿気の多い場所には保管しないこと。
 - ・消防法及び国連輸送法規に規定されている容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度:

許容濃度	管理濃度 (厚生労働省)	許容濃度 (日本産業衛生学会、2020年度版)	ACGIH(2017) TWA
製剤として	未設定	未設定	未設定

設備対策:

- ・換気設備又は局所排気設備を用いること。

保護具

呼吸器の保護具:

- ・呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具:

- ・皮膚への接触を避けられる保護手袋を着用すること。

眼の保護具:

- ・ゴーグル型もしくは側板付き普通眼鏡型を着用すること。

皮膚、身体の保護具:

- ・皮膚への接触を避けられる耐薬品性の保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観:

- ・茶褐色液体

臭い:

- ・アミン臭

融点／凝固点:

- ・-16℃以下

沸点又は初留点

／沸点範囲:

- ・データなし

可燃性:

- ・データなし

爆発下限界及び上限界

／可燃限界:

- ・データなし

引火点:

- ・なし

自然発火温度:

- ・データなし

分解温度:

- ・データなし

pH:

- ・7.0 (20℃)

動粘性率:

- ・125cS

溶解度:

- ・水に可溶

n-オクタノール／水分配係数:

- ・データなし

蒸気圧:

- ・データなし

密度及び／又は相対密度:

- ・1.15 (20℃)

相対ガス密度:

- ・データなし

粒子特性:

- ・データなし

10.安定性及び反応性

反応性:	・知見なし
化学的安定性:	・通常の使用下では安定。
危険有害可能性:	・知見なし
避けるべき条件:	・知見なし
混触危険物質:	・陰イオン系ポリマーとの混合。
危険有害な分解生成物:	・燃焼により、一酸化炭素及び二酸化炭素を発生する。

11.有害性情報

別紙参照

12.環境影響情報

生態毒性:	・別紙参照
残留性・分解性:	・知見なし
生体蓄積性:	・知見なし
土壤中の移動性:	・知見なし
オゾン層への有害性:	・知見なし
他の有害影響:	・知見なし

13.廃棄上の注意

残余廃棄物:	・廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にすること。 ・廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 ・都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに依託して処理すること。 ・廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を依託すること。
汚染容器および包装:	・容器は清掃してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。 ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14.輸送上の注意

国内規制	
陸上規制情報:	・労働安全衛生法、消防法等に定められている輸送方法に従うこと。
海上規制情報:	・船舶安全法に定められている輸送方法に従うこと。
航空規制情報:	・航空法に定められている輸送方法に従うこと。
特別の安全対策:	・運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。
国際規制	
国連番号:	・3082
国連分類:	・クラス9 (有害危険性物質)
容器等級:	・容器等級Ⅲ

15.適用法令

消防法:	・非該当
労働安全衛生法:	・非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法):	・非該当
毒物及び劇物取締法:	・非該当
化審法:	・規制されない
船舶安全法:	・国連分類に合わせて、法規対応すること。
海洋汚染防止法:	・非該当
航空法:	・国連分類に合わせて、法規対応すること。

16.その他の情報

参考文献

1. 国連GHS文書 改定6版 (2015)
2. JIS Z 7252:2019 「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
3. JIS Z 7253:2019 「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
4. 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) 公開データ
5. 弊社入手の製品安全データシート及び入手資料

* 注意

安全データシートは危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者提供されるものです。取扱う事業者はこれを参考とし、自らの責任において個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。
従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

別紙
有害性情報の詳細

GHS区分	分類	分類の根拠
急性毒性 (経口)	区分4	LD ₅₀ : 1,951mg/kg (ラット)
急性毒性 (経皮)	区分に該当しない	LD ₅₀ : 8,066mg/kg (ウサギ)
急性毒性 (吸入)	区分4 (粉じん・ミスト)	LC ₅₀ : 2.9mg/L(ラット)
皮膚腐食性／刺激性	分類できない	データなし
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	区分2A	危険有害性情報の分類基準に則り判定した結果、「眼を刺激する」に該当するため区分2Aとする。
呼吸器感作性	分類できない	データなし
皮膚感作性	分類できない	データなし
生殖細胞変異原性	分類できない	データなし
発がん性	分類できない	データなし
生殖毒性	分類できない	データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない	データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない	データなし
誤えん有害性	分類できない	データなし
水生環境有害性 短期(急性)	区分1	LC ₅₀ (96h)・:0.047mg/L(ニジマス)
水生環境有害性 長期(慢性)	区分1	長期毒性試験データが得られていないが、急性有害性が区分1であることから判断し区分1とした。
オゾン層への有害性	分類できない	モントリオール議定書の附属書に記載されている化学物質を含まないため、分類できないとした。